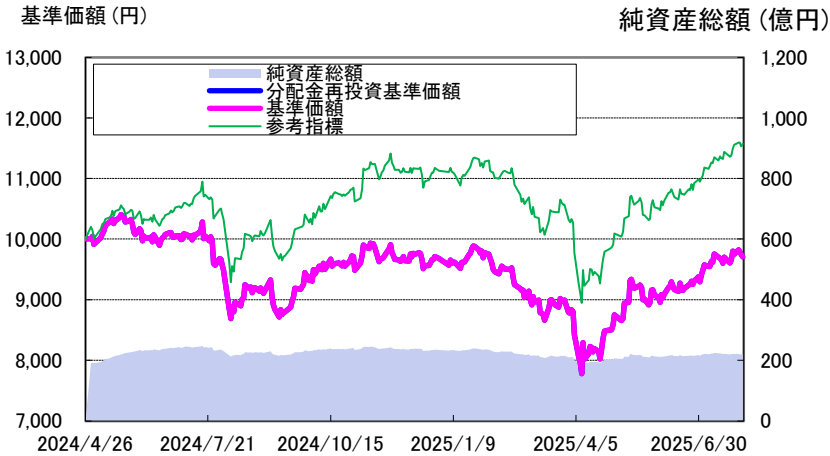


みずほサステナブルファンドシリーズ - LO・サーキュラー・エコノミー

追加型投信／内外／株式
2025年7月31日基準

運用実績の推移



基準価額・純資産総額

基準価額	9,709 円
純資産総額	218 億円

※基準価額は1万口当たり。

ポートフォリオ構成

実質組入比率	97.0 %
現物組入比率	97.0 %
先物組入比率	0.0 %
現金等比率	3.0 %

※比率は純資産総額に対する割合です。
※現金等の中には未払金等が含まれるため、比率が一時的にマイナスとなる場合があります。

(設定日: 2024年4月30日)
基準価額は1万口当たり・信託報酬控除後の価額です。なお、信託報酬率は「ファンドの費用」をご覧ください。
分配金再投資基準価額は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算したものであり、実際の基準価額とは異なります。
分配金再投資基準価額＝前日分配金再投資基準価額×(当日基準価額÷前日基準価額)
(※決算日の当日基準価額は税引前分配金込み)
基準価額は設定日前日を10,000円として計算しています。
参考指標はMSCIワールド・中小型株インデックス(配当込み、円換算ベース)であり、ファンドのベンチマークではありません。設定日前日の値を10,000円として計算しています。
上記は過去の実績であり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。

騰落率(税引前分配金再投資)

	1ヵ月	3ヵ月	6ヵ月	1年	設定来
ファンド	3.52%	14.22%	-0.68%	1.48%	-2.91%
参考指標	5.35%	17.40%	2.60%	11.16%	15.73%
差	-1.83%	-3.18%	-3.28%	-9.67%	-18.64%

※ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したものととして算出していますので、実際の投資家利回りとは異なります。
※上記は過去の実績であり、将来の運用成果等をお約束するものではありません。
※各期間は、基準日から過去に遡っています。また設定来の騰落率については、設定当初の投資元本を基に計算しています。

分配金実績(税引前) ※直近3年分

第1期 (2025.05.12) 0 円
設定来累計分配金 0 円

※分配金は1万口当たり。
※上記の分配金は過去の実績であり、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
※分配金額は、分配方針に基づいて委託会社が決定します。
あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

当月の基準価額変動の要因分析 (単位: 円)

株式要因	130
配当要因	3
為替要因	202
小計	335
その他	9
信託報酬	-14
分配金	0
合計	330

※上記の要因分析は、組入株式の値動き等が基準価額に与えた影響をご理解いただくために委託会社が「簡便法」により計算しておりますので、その正確性、完全性を保証するものではありません。
※その他は、株式要因、配当などによる要因(配当要因)、株式の評価にかかる為替変動による要因(為替要因)、信託報酬、分配金以外による基準価額の騰落額を表示しています。

みずほサステナブルファンドシリーズ - LO・サーキュラー・エコノミー

2025年7月31日基準

サーキュラー・エコノミー・マザーファンドの状況

組入上位10業種(%)

組入上位10カ国・地域(%)

組入上位10通貨(%)

No.	業種	組入比率
1	資本財・サービス	35.2
2	情報技術	19.1
3	生活必需品	15.0
4	素材	12.9
5	一般消費財・サービス	11.3
6	ヘルスケア	4.0
7	金融	1.4
8	公益事業	1.2
9		
10		

No.	国・地域	組入比率
1	米国	53.3
2	アイルランド	8.4
3	英国	6.8
4	カナダ	5.6
5	フランス	4.9
6	日本	4.7
7	オランダ	2.5
8	ドイツ	2.1
9	オーストラリア	2.0
10	英領ヴァージン	1.8

No.	通貨	組入比率
1	米ドル	61.8
2	ユーロ	16.0
3	英ポンド	6.8
4	日本円	4.7
5	カナダ・ドル	4.2
6	ノルウェー・クローネ	2.7
7	オーストラリア・ドル	2.0
8	デンマーク・クローネ	1.7
9		
10		

※組入比率は組入株式評価額に対する割合です。
※業種はGICS(世界産業分類基準)によるものです。(以下同じ)
※国・地域は発行国です。(以下同じ)

投資テーマ別組入比率(%)

投資テーマ	組入比率
循環型バイオエコノミー	35.1
廃棄物ゼロ	22.7
成果志向型経済	12.9
資源効率性	29.3

○当ファンドではサーキュラーエコノミーへの移行において重要と考えられる4つの投資テーマとして「循環型バイオエコノミー」「廃棄物ゼロ」「成果志向型経済」「資源効率性」に着目し、これら4つの投資テーマに関連して収益機会を拡大することが期待される企業に投資を行います。

※比率は組入株式評価額に対する割合です。
※投資テーマはロンバー・オディエ社の基準によるものです。
投資テーマの概要はP8「投資テーマ」をご覧ください。(以下同じ)
※ロンバー・オディエ社のデータを基に委託会社作成。

サーキュラー・エコノミー・マザーファンドにおけるサステナビリティ評価例

気候変動に関連する指標

	(トンCO2／投資額百万米ドル)	
	マザーファンド	(ご参考)世界中小型株式
温室効果ガス排出量	464.9	694.4

	(°C)	
	マザーファンド	(ご参考)世界中小型株式
気温上昇への影響	2.4	3.0

※2025年7月末時点
※温室効果ガス排出量は、各社が公表している情報を基に、上記時点のサーキュラー・エコノミー・マザーファンド、世界中小型株式の構成企業全体の温室効果ガス排出量を、それぞれの企業価値(時価総額＋負債－現金・現金同等物)に対する投資額の割合で按分して算出し、二酸化炭素相当量に換算した値です。
※気温上昇への影響は、世界全体が2100年まで、マザーファンド、世界中小型株式の構成企業と同様に温室効果ガスの排出を削減し続けた場合の気温上昇幅を、各社が公表している情報を基にロンバー・オディエ社が独自の方法で算出したものです。
※世界中小型株式は、MSCIワールド・中小型株インデックスを使用しています。当ファンドのベンチマークではありません。
※ロンバー・オディエ社の判断で、予告なく項目が変更または追加になる場合があります。
※ロンバー・オディエ社のデータを基に委託会社作成。

MSCIワールド・中小型株インデックスに関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。

※当資料は14枚ものです。
※P.14の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご覧ください。



アセットマネジメントOne

みずほサステナブルファンドシリーズ - LO・サーキュラー・エコノミー

2025年7月31日基準

サーキュラー・エコノミー・マザーファンドの状況

組入上位10銘柄①			(組入銘柄数：56)
No.	銘柄 国・地域 業種	組入 比率(%)	銘柄紹介 投資テーマ サステナビリティ評価ポイント
1	スマーフィット・ウエスト ロック アイルランド 素材	4.2	紙製包装材メーカー。世界各地で容器用板紙、段ボール、およびその他紙製包装材を提供する。スマーフィット・カップ・グループとウェストロックの統合により誕生。
			循環型バイオエコノミー
			包装材業界では、eコマース市場の急拡大により、紙や段ボール包装に対する需要が高まっています。また、欧州では2030年までにプラスチック包装の再生材料の含有率を一定以上にすることが義務付けられるなど転換点を迎えており、プラスチックを紙などの代替材料に置き換える動きが一段と強まる可能性があります。同社は、競合他社の買収により、世界的なプレゼンスを高めています。また、リサイクル紙や板紙から回収した繊維は年間800万トン製紙や包装材に再利用されるほか、繊維のおよそ75%はこうしたリサイクル資源を活用しています。
2	トレックス 米国 資本財・サービス	3.4	非木材デッキメーカー。世界各地でデッキや手すり、屋外照明、補助機器を提供する。
			成果志向型経済
			建築業界は、資源の使用と炭素排出量の観点で、最も環境負荷の高い産業のひとつです。業界が効率化を追求するなか、バイオ由来素材や循環型材料の使用、脱炭素ソリューション、長期使用可能な製品などから、新たな事業機会が生まれています。デッキや手すり製品市場では、より低い生涯コスト(メンテナンスを含む)とより高い耐久性により、複合材で作られたデッキや手すり製品が木材製品からシェアを奪っています。こうした複合材製品は、原料として再生プラスチックの利用が増加し、長寿命化が進んでいます。
3	コンパス・グループ 英国 一般消費財・サービス	3.2	ケータリング会社。世界各地で、オフィスや工場、病院、介護施設、学校、軍事施設などにおいてケータリングやサポートサービスを手掛ける。
			廃棄物ゼロ
			フードサービス事業では、食品廃棄物の削減、責任ある食材の調達、持続可能な食卓、包装廃棄物の最小化、リサイクルの促進が優先課題となっています。同社はこうした課題を解決するための豊富な知見を有し、規模の経済性を活かして持続可能なソリューションや幅広いサービスを提供しています。2030年までに食品廃棄物を半減することを目標とし、これまで世界28か国で約3割の削減を達成しています。家畜がCO2排出の主な要因であることを認識し、2030年までにたんぱく質の40%を動物性から植物性に移行することも目指しています。

※世界産業分類基準(GICS)は、MSCI Inc.(MSCI)およびStandard & Poor’s Financial Services LLC(S&P)により開発された、MSCIおよびS&Pの独占的権利およびサービスマークであり、アセットマネジメントOne株式会社にに対し、その使用が許諾されたものです。MSCI、S&P、およびGICSまたはGICSによる分類の作成または編纂に関与した第三者のいずれも、かかる基準および分類(並びにこれらの使用から得られる結果)に関し、明示黙示を問わず、一切の表明保証をなさず、これらの当事者は、かかる基準および分類に関し、その新規性、正確性、完全性、商品性および特定目的への適合性についての一切の保証を、ここに明示的に排除します。上記のいずれをも制限することなく、MSCI、S&P、それらの関係会社、およびGICSまたはGICSによる分類の作成または編纂に関与した第三者は、いかなる場合においても、直接、間接、特別、懲罰的、派生的損害その他一切の損害(逸失利益を含みます。)につき、かかる損害の可能性を通知されていた場合であっても、一切の責任を負うものではありません。

※組入比率は組入株式評価額に対する割合です。
※サステナビリティ評価ポイントは、ロンバー・オディエ社が独自にサステナビリティの観点により企業を評価したものです。
※上記は、組入銘柄の紹介を目的として、ロンバー・オディエ社からの情報を基に委託会社が作成しており、記載銘柄の推奨を行うものではありません。

みずほサステナブルファンドシリーズ – LO・サーキュラー・エコノミー

2025年7月31日基準

サーキュラー・エコノミー・マザーファンドの状況

組入上位10銘柄②

No.	銘柄 国・地域 業種	組入 比率(%)	銘柄紹介 投資テーマ サステナビリティ評価ポイント
4	ザイレム 米国 資本財・サービス	3.0	上下水道関連会社。水やエネルギー分野を中心に上下水道用ポンプや処理・試験設備・装置、工業用水ポンプ、バルブ、熱交換機、給水設備・装置などの製品やサービスを提供する。
			循環型バイオエコノミー
			水損失の削減や水の再利用、水質の保護・監視・浄化など水資源管理システムの改善は自然保護において極めて重要です。同社は水の供給や再利用、排水処理、水質検査などにおいて幅広いソリューションを提供しています。老朽化した水インフラの大規模改修や製造工程で水を大量に使用する半導体市場の急拡大、食品・飲料業界における持続的な水の供給確保などを背景に、同社の技術やソリューションに対する需要は高まるとみています。同社は水の再利用などによって2030年までに世界の水需要を20億立方メートル削減することを目指しています。
5	シスコ 米国 生活必需品	2.9	食品流通会社。外食・レストランを中心に、医療施設や教育施設、宿泊施設向けに、冷凍食品、缶詰・ドライフード、生鮮食品、日用品、飲料などを世界中で提供する。
			廃棄物ゼロ
			食品・飲食業界では、健康や栄養に対する意識の高まりを受けて、代替タンパク質製品に対する需要が高まっているほか、自動走行配膳ロボットの登場により、高度な自動化への道が開かれ、新たなビジネス機会が生まれています。同社は、世界の食品システムの効率性向上において極めて重要な役割を果たしており、持続可能な農業や廃棄物の削減などの分野で前向きな変化を推進する立場にあります。2025年にかけて持続可能な農業の対象作物を当初の5種類から拡大しているほか、食品を含む廃棄物の90%を削減することを目指しています。
6	ゼブラ・テクノロジーズ 米国 情報技術	2.7	電子製品会社。リアルタイムで在庫を管理し、食品および非食品のサプライチェーン全体で廃棄や盗難を最小限に抑えるためのハードウェアとソフトウェアを提供する。
			資源効率性
			サプライチェーンにおける事業リスクの回避、持続可能性や廃棄物削減への関心の高まり、効率性向上による経済的節約の機会を求める動きが加速しています。このような背景から、企業はより優れたラベリングや追跡機能を導入し、サプライチェーンの透明性向上や在庫を可視化することが求められています。同社の製品が資源の効率的活用、廃棄物の削減などに貢献することが期待できます。
7	クリーン・ハーバース 米国 資本財・サービス	2.7	廃棄物処理会社。米国やプエルトリコで、廃棄物の処理・廃棄、使用済み油の再精製、部品洗浄および関連環境サービス事業などを手掛ける。
			廃棄物ゼロ
			廃棄物処理に関する規制が益々厳しく、複雑化するなかで、新しい規制に対応することができる規模や実績、専門性を有する同社は中小企業や新規参入企業に比べて優位な位置づけにあります。特に同社のように特定の地域で独占的に埋立地を有する廃棄物処理会社は、埋立地として利用可能な土地が限られていることから、高い価格決定力を有しています。欧米における厳格なPFAS(発がん性が指摘される有機フッ素化合物)規制の導入により、同社が提供する高温焼却サービスへの需要増加の恩恵を受けることも期待されています。

※組入比率は組入株式評価額に対する割合です。
※サステナビリティ評価ポイントは、ロンバー・オディエ社が独自にサステナビリティの観点により企業を評価したものです。
※上記は、組入銘柄の紹介を目的として、ロンバー・オディエ社からの情報を基に委託会社が作成しており、記載銘柄の推奨を行うものではありません。

※当資料は14枚ものです。
※P.14の「当資料のお取り扱いについてのご注意」をご覧ください。

みずほサステナブルファンドシリーズ – LO・サーキュラー・エコノミー

2025年7月31日基準

サーキュラー・エコノミー・マザーファンドの状況

組入上位10銘柄③

No.	銘柄 国・地域 業種	組入 比率(%)	銘柄紹介 投資テーマ サステナビリティ評価ポイント
8	HP 米国 情報技術	2.6	コンピューターメーカー。世界各地で法人・個人向けにコンピューターやプリンター、3Dプリンター、スキャナー、コピー機、ワークステーションなどを提供する。
			資源効率性
			同社は、2030年までに製品および梱包材の総重量の75%以上を「循環型(リサイクルや再利用)」にすることを目指している。また、製品寿命の延長やアップグレード、メンテナンス、改修・再販プログラムなどにより、サーキュラーエコノミーの実現に貢献している。さらに、AI搭載コンピュータは、サーキュラーエコノミーを促進するロボット化や自動化、デジタル化につながり、資源の効率的な活用や廃棄物の削減につながる事が期待される。
9	ケリー・グループ アイルランド 生活必需品	2.6	世界的な大手食品会社。世界中に製造拠点を置き、食品、飲料、医薬品業界向けに革新的な香料や栄養剤、機能成分を開発、生産、供給する。また、英国やアイルランドで高付加価値の冷蔵食品も提供する。
			循環型バイオエコノミー
			食品業界は代替タンパク質へのシフト、消費者の健康ニーズに対応した製品の改良、精密発酵(微生物を培養することで、特定の食品成分を生成する技術)のような革新的な生産方法の普及など、大きな変化を遂げつつあります。また、消費者はオーガニック食品やクリーンラベル食品(添加物や保存料、遺伝子組み換え原料などが不使用の食品)を愛好する傾向があり、同社はこうした食品の開発に積極的に取り組んでいます。同社は、相対的に成長性の高い原料事業に注力し、健康とウェルネスの向上を目的とした包括的なソリューションを提供しています。
10	アドバンスド・ドレナージ・システムズ 米国 資本財・サービス	2.3	排水管メーカー。米国全土で高性能熱可塑性コルゲートパイプ(加熱することで容易に変形することができる、リサイクルに適した素材の排水管)を製造および販売するほか、建設物、インフラ、農地で使用するための水管理製品および排水ソリューションを提供する。
			循環型バイオエコノミー
			都市部で発生した豪雨は、近くの河川や湖、沿岸地域を汚染する可能性があるため、大きな問題となっており、世界中で汚水と雨水を分けて流すための仕組みの導入が急がれています。こうしたなか、従来製品に比べてコストが安く、設置速度の速い同社製品のニーズは高まることが予想されます。また、同社は大規模なリサイクル施設を保有しており、同社製品には現在年間5億英ポンド相当のリサイクル素材が使用されていますが、これを2032年までに倍増させることを目指しています。

※組入比率は組入株式評価額に対する割合です。
※サステナビリティ評価ポイントは、ロンバー・オディエ社が独自にサステナビリティの観点により企業を評価したものです。
※上記は、組入銘柄の紹介を目的として、ロンバー・オディエ社からの情報を基に委託会社が作成しており、記載銘柄の推奨を行うものではありません。
※当資料中の各数値については、表示桁未満の数値がある場合、四捨五入して表示しています。

※当資料は14枚ものです。
※P.14の「当資料のお取り扱いについてのご注意」をご覧ください。

みずほサステナブルファンドシリーズ - LO・サーキュラー・エコノミー

2025年7月31日基準

マーケット動向とファンドの動き

7月のグローバル中小型株式市場は上昇しました。上旬は、トランプ政権の関税政策に対する不透明感が根強いなか、労働市場の底堅さが示された6月の米雇用統計を受けて上昇しました。中旬は、トランプ政権がカナダに対して35%の関税を課すと表明したほか、多くの貿易相手国に対して15~20%の関税を課す考えを示したことで、貿易摩擦激化の懸念が高まり下落しました。しかし、6月の小売売上高が予想を上回り、米経済の底堅さが意識されると、下落幅を縮めました。下旬は、日米間の関税交渉の合意などが好感されたことから、上昇しました。月末にはパウエルFRB(米連邦準備理事会)議長が利下げに慎重な姿勢を示したことで、上昇幅を縮小しました。セクター別では、公益や資本財・サービスセクターの上昇が目立ちました。なお、7月末の米ドルの対円レートは前月末比上昇しました。こうしたなか、当ファンドの基準価額は上昇しました。保有銘柄では、米国の非木製デッキ製品メーカーのトレックスやソフトウェア会社のPTCなどが大きく上昇し、当ファンドのパフォーマンスにプラスの影響を与えました。

今後のマーケットの見通しと運用方針

トランプ政権の関税政策が今後世界経済や企業業績に与える影響は依然として不透明なもの、米国が日本やEU(欧州連合)など主要貿易相手国との貿易協議で合意に至ったことで関税政策に対する過度な懸念が和らぎつつあります。また、米国経済の底堅さやFRBによる利下げ再開期待、欧州における財政支出の拡大観測などが相場を下支えするとみています。こうしたなか、投資家の物色はこれまで市場をけん引してきたマグニフィセントセブンなどの一部の超大型ハイテク株からより幅広い銘柄に広がりつつあります。とりわけ当ファンドの主要投資対象である中小型株は相対的な出遅れ感もあって、市場の注目を集めると考えています。当ファンドではサーキュラーエコノミーへの移行によって恩恵を受ける、高クオリティ且つ、企業固有の要因によって高い成長が見込まれる企業に投資を行う方針です。また、循環型バイオエコノミーや廃棄物ゼロ、成果志向型経済、資源効率性の4つの投資テーマに着目しており、その中でも高性能なバイオ素材や先端的製造業、廃棄物のリサイクルや水管理、環境保全など持続可能な世界に貢献するインフラ事業などを選好しています。経済や規制環境の変化によって、こうした分野において新たなビジネスモデルが創出されています。

※上記のマーケット動向とファンドの動きは、過去の実績であり将来の運用成果等をお約束するものではありません。また、今後のマーケットの見通しと運用方針は、作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等により当該運用方針が変更される場合があります。

※当資料は14枚ものです。

※P.14の「当資料のお取り扱いについてのご注意」をご覧ください。



アセットマネジメントOne

みずほサステナブルファンドシリーズ - LO・サーキュラー・エコノミー

2025年7月31日基準

ファンドの特色(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)

信託財産の成長を図ることを目的として、積極的な運用を行います。

○主として、世界(わが国および新興国を含みます。)の企業の中から、サーキュラーエコノミー(循環経済)^{*1}の実現に寄与する事業に取り組み、成長が期待される企業の株式^{*2}に実質的に投資を行います。

(※1) サーキュラーエコノミーとは、資源を循環的に利用しつつ付加価値を生み出すことを目指す、循環型の社会経済システムです。

(※2) DR(預託証券)もしくは株式と同等の投資効果が得られる権利を表示する証券および証書等を含みます。

・サーキュラー・エコノミー・マザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)への投資を通じて、世界の金融商品取引所(わが国および新興国を含みます。)に上場する株式(上場予定を含みます。)に実質的に投資を行います。なお、マザーファンドの組入比率は、原則として高位を維持します。

・株式の実質組入比率は、原則として高位を維持します。

・実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。このため、基準価額は為替変動の影響を受けます。

○社会環境の変化に関するリサーチと、独自のフレームワークを用いた各銘柄の評価を基に、サーキュラーエコノミーの実現に寄与する事業に取り組み、成長が期待される銘柄を厳選して投資を行います。

・社会環境の変化に関するリサーチによって、今後拡大することが期待される収益機会を特定します。

・ロンバー・オディエ社^{*1}独自のフレームワークによって、環境や社会、ガバナンスの観点で望ましくないと考えられる企業を投資対象から除外し、サステナビリティの観点による企業の評価を実施します。

・社会環境の変化への対応、ビジネスモデル、バリュエーション(株価指標)、資本効率などの観点から優れていると判断される銘柄を厳選して投資を行います。

・マザーファンドの純資産額のうち、ESG^{*2}を主要な要素として選定する銘柄への投資額(時価ベース)の比率について70%以上を目標とします。

(※1) ロンバー・オディエ社とは、ロンバー・オディエ・グループの資産運用部門に属する企業の総称です。

(※2) 「ESG」とは、環境(Environment)、社会(Social)、企業統治(Governance)の略称です。

※ 資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。

※当資料は14枚ものです。

※P.14の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご覧ください。

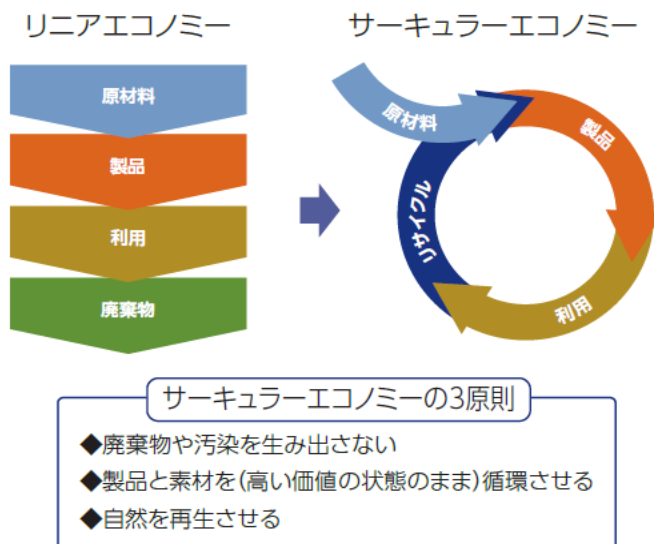


アセットマネジメントOne

ファンドの特色(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)

サーキュラーエコノミー(循環経済)とは

- ◆サーキュラーエコノミーとは、大量生産・大量消費を伴う一方通行型の経済社会システム(リニアエコノミー)から脱却し、社会全体で資源の投入量や消費量を抑え、資源を循環的に利用しつつ付加価値を生み出すことを目指す、循環型の経済社会システムです。
- ◆大量生産・大量消費を伴う経済社会システムは、気候変動問題や天然資源の枯渇、生物多様性の破壊など様々な環境問題の要因となっています。資源・エネルギーや食糧の需要増大、廃棄物発生量の増加が世界全体で深刻化する中で、限りある資源を持続可能な形で効率的に利用する「サーキュラーエコノミー」への移行を目指すことが求められます。



(出所)環境省、エレン・マッカーサー財団等の情報を基に委託会社作成

投資テーマ

- ◆当ファンドではサーキュラーエコノミーへの移行において重要と考えられる4つの投資テーマとして「循環型バイオエコノミー」「廃棄物ゼロ」「成果志向型経済」「資源効率性」に着目します。
- ◆これら4つの投資テーマに関連して収益機会を拡大することが期待される企業に投資を行います。



循環型バイオエコノミー

バイオテクノロジーやバイオマテリアルなど、生物資源を活用することによって環境負荷を低減することを目指す。
製品やサービス: 分解性のバイオプラスチック、紙およびパルプボードの包装材料 など



廃棄物ゼロ

リサイクルの推進や食品ロスの削減などによって、可能な限り廃棄物を出さないことを目指す。
製品やサービス: 廃棄物の少ない包装資材、廃棄物処理インフラサービス など



成果志向型経済

モノの製造や販売を重視する経済から、製品がもたらす利用価値や成果を重視する経済への転換を目指す。
製品やサービス: シェアリング・サービス、耐久性のある商品、商品の修理サービス など



資源効率性

経済活動における資源の消費を抑制することで、資源の採集や使用、廃棄物処理に伴う環境への悪影響の低減を目指す。
製品やサービス: 製品デザイン向けソフトウェア、リサイクル率の高い金属素材 など

※上記の投資テーマや関連する製品・サービスは2025年5月末時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。
(出所)ロンバー・オディエ社の情報を基に委託会社作成

※ 資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。

ファンドの特色(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)

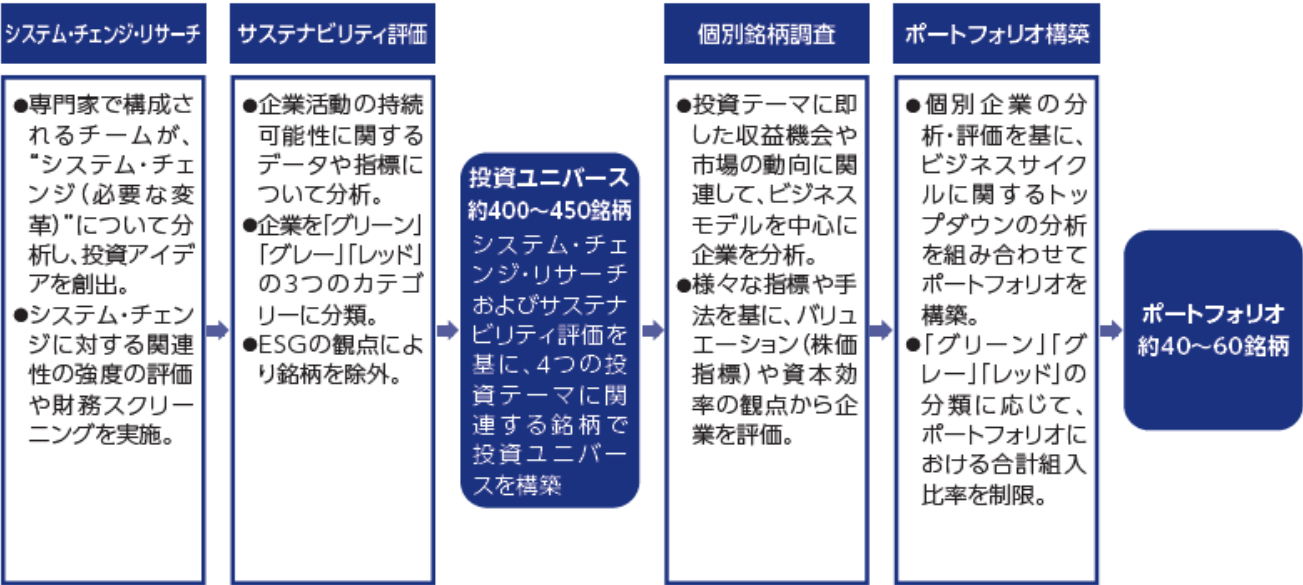
- マザーファンドの運用にあたっては、ロンバー・オディエ・アセット・マネジメント(ヨーロッパ)リミテッド^{*1}に運用指図に関する権限の一部(株式等の運用の指図に関する権限)を委託します。
 - ・ ロンバー・オディエ・アセット・マネジメント(ヨーロッパ)リミテッドは、その委託を受けた運用の指図に関する権限の一部を、ロンバー・オディエ・アセット・マネジメント(スイス)エス・エー^{*2}およびロンバー・オディエ・アセット・マネジメント(USA)コープ^{*3}に再委託します。
- (* 1) ロンバー・オディエ社の英国拠点です。
(* 2) ロンバー・オディエ社のスイス拠点です。
(* 3) ロンバー・オディエ社の米国拠点です。

ロンバー・オディエ・グループについて

- ロンバー・オディエ・グループは欧州最大級のプライベートバンクです。
- ロンバー・オディエ・グループは1796年の創立以来、200年以上にわたって富裕層や機関投資家に資産運用サービスを提供しています。
- ロンバー・オディエ・グループの資産運用部門はヨーロッパ、アジア、北米に複数拠点を有し、グローバルな運用体制を構築しています。
- ESG投資においては長期にわたって独自の取り組みを実践しています。

※ロンバー・オディエ社とは、ロンバー・オディエ・グループの資産運用部門に属する企業の総称です。
(出所)ロンバー・オディエ社の情報を基に委託会社作成

運用プロセス



※上記はマザーファンドの運用プロセスです。
※運用プロセスは、2025年5月末時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。
(出所)ロンバー・オディエ社の情報を基に委託会社作成

※ 資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。

※当資料は14枚ものです。
※P.14の「当資料のお取り扱いについてのご注意」をご覧ください。

ファンドの特色(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)

システム・チェンジ・リサーチ

- ◆ ロンバー・オディエ社では、環境科学や政策、経済学などの専門家によるリサーチチームが、長期的な社会環境の変化に関するリサーチを行います。
- ◆ 幅広いテーマに関連したリサーチを基に、テクノロジーや政策、ビジネスモデルなどに関する分析を行い、投資アイデアを創出します。

代表的なリサーチ内容



食料システム



建築環境



バイオエコノミー



電力システム



新燃料



技術革新



産業と素材

※リサーチ内容は上記に限定されません。

※上記のシステム・チェンジ・リサーチは、マザーファンドについての内容です。

※上記のリサーチ内容は2025年5月末時点での情報であり、今後予告なく変更される場合があります。

(出所) ロンバー・オディエ社の情報を基に委託会社作成

サステナビリティ評価

- ◆ 個別の企業に対してサステナビリティの観点から分析・評価を行い、各銘柄を「グリーン」「グレー」「レッド」に分類します。
- ◆ マザーファンドにおける「グリーン」銘柄の合計組入比率は70%以上とします。
なお、「レッド」銘柄の合計組入比率は参考指数(MSCIワールド・中小型株インデックス)における「レッド」相当銘柄の構成比率の50%以下とします。
※「レッド」銘柄は、投資テーマに関連して重要な役割を果たしているとロンバー・オディエ社の会議体で承認した場合のみ、投資ユニバースへの選定およびポートフォリオへの組み入れが行われます。
- ◆ 環境や社会、ガバナンスの観点で望ましくないと考えられる企業を除外します。

ESGの観点による除外

次のような環境や社会、ガバナンスの観点で望ましくないと考えられる企業には投資を行いません。

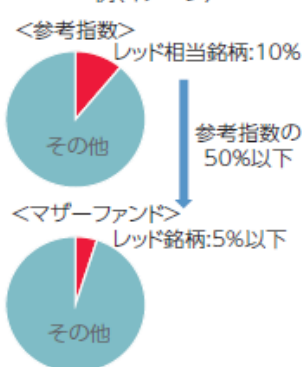
- ◆ 非人道的兵器を製造、取引、保管する企業
- ◆ たばこ、石炭採掘、石炭火力発電、非在来型石油・ガスに関連する収益寄与が一定のしきい値を超える企業
- ◆ 人権、労働、環境、腐敗防止の観点で懸念のある企業

サステナビリティ評価に基づき企業を分類

- ◆ 独自のフレームワークによって企業を評価し、「グリーン」「グレー」「レッド」に分類します。
- ◆ 対象となる企業について、「持続可能な事業の業績への寄与度」「環境や社会に与える悪影響」「適正なガバナンス」の3つの観点を「サステナブル」「中立」「課題あり」の3段階で評価し、最終的な分類を決定します。

分類	対象企業	合計組入比率
グリーン	3つの観点すべてで「サステナブル」と評価する企業	70%以上
グレー	「中立」と評価する観点があるものの、「課題あり」と評価する観点がない企業	ルールなし
レッド	3つの観点のうち、「課題あり」と評価する観点が1つでもある企業	参考指数における「レッド」相当銘柄の構成比率の50%以下

一例(イメージ)



※MSCIワールド・中小型株インデックスは世界の先進国の中型および小型の株式で構成される指数です。

※MSCIワールド・中小型株インデックスは当ファンドのベンチマークではありません。

※上記のサステナビリティ評価は、マザーファンドについての内容です。

※上記は2025年5月末時点での情報であり、今後予告なく変更される場合があります。

(出所) ロンバー・オディエ社の情報を基に委託会社作成

※ 資金動向、市況動向等によっては、上記の運用ができない場合があります。

※ 当資料は14枚ものです。

※P.14の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご覧ください。

ロンパー・オディエ社のスチュワードシップに関する声明

責任ある投資家として持続可能な企業を実現するために、企業と対話し、議決権を行使する義務があります。スチュワードシップ活動を通じて、次の主要な目標を達成することを目指します。

- ・持続可能な社会への移行に寄与する取り組みを促進します。企業に対するサステナビリティ評価の結果を踏まえてスチュワードシップ活動に取り組むことで、企業の持続可能な社会への移行に関するより高い目標設定と信頼性の向上、開示および実践の改善を促進し、議論に取り組む中で役割を果たします。
- ・持続可能性に関する一連のリサーチを活用し、スチュワードシップ活動を通じて、企業の持続可能な収益源への移行について支援、推進することを目指します。

私たちは、投資チームやリサーチチームと一体となって、アセットクラスを横断した企業との対話と議決権の行使を通じて、スチュワードシップの責任を果たします。私たちは、持続可能な社会への移行に寄与する取り組みと持続可能なリターンを促進するために、企業と対話し議決権を行使します。この対話を通じて企業の持続可能性に対する理解を高め、さらに投資に関する分析に反映します。

※上記は2025年5月末時点での情報であり、今後予告なく変更される場合があります。

※上記はロンパー・オディエ社の情報を基に委託会社が作成したものであり、ロンパー・オディエ社が開示する原文(英文)と齟齬がある場合には原文が優先されます。

主な投資リスクと費用(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)

当ファンドは、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)に投資しますので、ファンドの基準価額は変動します。これらの運用による損益はすべて投資者のみなさまに帰属します。したがって、投資者のみなさまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。

また、投資信託は預貯金と異なります。

なお、基準価額の変動要因は、下記に限定されるものではありません。その他の留意点など、くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

- 株価変動リスク …… 株式の価格は、国内外の政治・経済・社会情勢の変化、発行企業の業績・経営状況の変化、市場の需給関係等の影響を受け変動します。株式市場や当ファンドが実質的に投資する企業の株価が下落した場合には、その影響を受け、基準価額が下落する要因となります。また、当ファンドは実質的に企業のESGへの取組みを考慮した投資を行うことから、投資対象が株式市場全体と比べて特定の銘柄や業種に偏ることがあり、このため基準価額の変動が株式市場全体の動向から乖離することや、株式市場が上昇する場合でも基準価額が下落する場合があります。
- 為替変動リスク …… 為替相場は、各国の政治情勢、経済状況等の様々な要因により変動し、外貨建資産の円換算価格に影響をおよぼします。当ファンドは、実質組入外貨建資産について原則として為替ヘッジを行わないため為替変動の影響を受けます。このため為替相場が当該実質組入資産の通貨に対して円高になった場合には、実質保有外貨建資産が現地通貨ベースで値上がりした場合でも基準価額が下落する可能性があります。
- 流動性リスク …… 有価証券等を売却または取得する際に市場規模や取引量、取引規制等により、その取引価格に影響を受ける場合があります。一般に市場規模が小さい場合や取引量が少ない場合には、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないことや、値動きが大きくなることもあり、基準価額に影響をおよぼす要因となります。
- 信用リスク …… 有価証券等の価格は、その発行者に債務不履行等が発生または予想される場合には、その影響を受け変動します。当ファンドが実質的に投資する株式の発行者が経営不安・倒産に陥った場合、また、こうした状況に陥ると予想される場合、信用格付けが格下げされた場合等には、株式の価格が下落したり、その価値がなくなることがあり、基準価額が下落する要因となります。
- カントリー
リスク …… 投資対象国・地域の政治経済情勢、通貨規制、資本規制、税制、また、取引規制等の要因によって資産価格や通貨価値が大きく変動する場合があります。海外に投資する場合には、これらの影響を受け、基準価額が下落する要因となる場合があります。当ファンドは実質的に新興国の株式にも投資を行う場合があります。新興国の経済状況は、先進国経済と比較して一般的に脆弱である可能性があります。そのため、当該国のインフレ、国際収支、外貨準備高等の悪化等が株式市場や為替市場におよぼす影響は、先進国以上に大きいものになることが予想されます。さらに、政府当局による海外からの投資規制や課徴的な税制、海外への送金規制等の種々な規制の導入や政策の変更等の要因も株式市場や為替市場に著しい影響をおよぼす可能性があります。
- ESG情報・
評価に
関連する
制約 …… 当ファンドで勘案するESG情報は、委託会社および運用外部委託先が独自調査で入手した情報だけでなく、第三者のESG情報ベンダーによる情報や評価が含まれている場合があります。これらのESG情報は、企業開示や企業アンケート、取材等により入手・収集されますが、ESG情報ベンダーからの提供情報は、当該情報ベンダーの情報収集力により情報量が制限されることがあります。また、企業によって開示された情報やメディアによって報道される情報は、タイムリーに評価結果に反映されないことがあります。また、委託会社および情報ベンダーによる評価基準の変更により、過去からの情報継続性が失われることがあります。

当ファンドへの投資に伴う主な費用は購入時手数料、信託報酬などです。

費用の詳細につきましては、当資料中の「ファンドの費用」および投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

※当資料は14枚ものです。

※P.14の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご覧ください。



アセットマネジメントOne

みずほサステナブルファンドシリーズ - LO・サーキュラー・エコノミー

2025年7月31日基準

お申込みメモ(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)	
購入単位	販売会社が定める単位(当初元本1口＝1円)
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額(基準価額は1万口当たりで表示しています。)
購入代金	販売会社が定める期日までにお支払いください。
換金単位	販売会社が定める単位
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額
換金代金	原則として換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
申込締切時間	原則として営業日の午後3時30分までに販売会社が受付けたものを当日分のお申込みとします。 なお、販売会社によっては異なる場合がありますので、詳しくは販売会社にお問い合わせください。
購入・換金 申込不可日	以下のいずれかに該当する日には、購入・換金のお申込みの受付を行いません。 ・ニューヨーク証券取引所の休業日 ・ロンドン証券取引所の休業日 ・ニューヨークの銀行の休業日 ・ロンドンの銀行の休業日
換金制限	信託財産の資金管理を円滑に行うため、大口の換金請求に制限を設ける場合があります。
購入・換金申込受付 の中止および取消し	金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止、決済機能の停止、その他やむを得ない事情があるときは、購入・換金のお申込みの受付を中止することおよびすでに受付けた購入・換金のお申込みの受付を取り消す場合があります。
信託期間	2045年5月10日まで(2024年4月30日設定)
繰上償還	次のいずれかに該当する場合には、受託会社と合意の上、信託契約を解約し、当該信託を終了(繰上償還)することがあります。 ・信託契約を解約することが受益者のために有利であると認める場合 ・純資産総額が30億円を下回ることとなった場合 ・やむを得ない事情が発生した場合
決算日	毎年5月10日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	年1回の毎決算日に、収益分配方針に基づいて収益分配を行います。 ※お申込コースには、「分配金受取コース」と「分配金再投資コース」があります。ただし、販売会社によっては、どちらか一方のみの取扱いとなる場合があります。詳細は販売会社までお問い合わせください。
課税関係	課税上は株式投資信託として取り扱われます。 原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時の値上がり益および償還時の償還差益に対して課税されます。 公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。 当ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。 詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※税法が改正された場合等には、上記内容が変更となることがあります。

ファンドの費用(くわしくは投資信託説明書(交付目論見書)を必ずご覧ください)	
以下の手数料等の合計額、その上限額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することができません。 ※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。	
●投資者が直接的に負担する費用	
購入時手数料	購入価額に、 3.3%(税抜3.0%) を上限として、販売会社が別に定める手数料率を乗じて得た額となります。
換金手数料	ありません。
信託財産留保額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額に 0.3% の率を乗じて得た額を、換金時にご負担いただきます。
●投資者が信託財産で間接的に負担する費用	
運用管理費用 (信託報酬)	ファンドの日々の純資産総額に対して 年率1.738%(税抜1.58%)
その他の費用・ 手数料	その他の費用・手数料として、お客様の保有期間中、以下の費用等を信託財産からご負担いただきます。 ・組入価証券等の売買の際に発生する売買委託手数料、信託事務の処理に要する諸費用、外国での資産の保管等に要する費用、監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 等 ※これらの費用等は、定期的に見直されるものや売買条件等により異なるものがあるため、事前に料率・上限額等を示すことができません。

※当資料は14枚ものです。
※P.14の「当資料のお取扱いについてのご注意」をご覧ください。

投資信託ご購入の注意

- 投資信託は
- ① 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象にもなりません。
 - ② 購入金額については元本保証および利回り保証のいずれもありません。
 - ③ 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。

当資料のお取扱いについてのご注意

- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成した販売用資料です。
- お申込みに際しては、販売会社からお渡しする投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。
- 当ファンドは、株式等の値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります。)に実質的に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益は全て投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。
- 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。
- 当資料における内容は作成時点(2025年8月20日)のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

- ◆収益分配金に関する留意事項◆
- 収益分配は、計算期間中に発生した運用収益(経費控除後の配当等収益および売買益(評価益を含みます。))を超えて行われる場合があります。したがって、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。
 - 受益者の個別元本の状況によっては、分配金の全額または一部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。個別元本とは、追加型投資信託を保有する受益者毎の取得元本のことで、受益者毎に異なります。
 - 分配金は純資産総額から支払われます。このため、分配金支払い後の純資産総額は減少することとなり、基準価額が下落する要因となります。計算期間中の運用収益以上に分配金の支払いを行う場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。

- ◆委託会社およびファンドの関係法人 ◆
- <委託会社>アセットマネジメントOne株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第324号
加入協会:一般社団法人投資信託協会
一般社団法人日本投資顧問業協会
 - <受託会社>みずほ信託銀行株式会社
 - <販売会社>販売会社一覧をご覧ください

- ◆委託会社の照会先 ◆
- アセットマネジメントOne株式会社
コールセンター 0120-104-694
(受付時間:営業日の午前9時~午後5時)
ホームページ URL <https://www.am-one.co.jp/>

販売会社(お申込み、投資信託説明書(交付目論見書)のご請求は、以下の販売会社へお申し出ください)

○印は協会への加入を意味します。 2025年8月20日現在

商号	登録番号等	日本証券 業協会	一般社団 法人日本 投資顧問 業協会	一般社団 法人金融 先物取引 業協会	一般社団 法人第二 種金融商 品取引業 協会	備考
株式会社みずほ銀行	登録金融機関 関東財務局長(登金)第6号	○		○	○	
みずほ証券株式会社	金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第94号	○	○	○	○	

- その他にもお取扱いを行っている販売会社があります。
また、上記の販売会社は今後変更となる場合があるため、販売会社または委託会社の照会先までお問い合わせください。
- <備考欄について>
- ※1新規募集の取扱いおよび販売業務を行っておりません。
 - ※2備考欄に記載されている日付からのお取扱いとなりますのでご注意ください。
 - ※3備考欄に記載されている日付からお取扱いを行いませんのでご注意ください。
- (原則、金融機関コード順)

※当資料は14枚ものです。